

発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市萩山町5-6-26-301  
 Tel. 0423-92-8808  
 編集者 川村 英明

# 東村山市民テニスクラブ協議会 第8回総会報告

第8回定期総会は2月10日(日)2時半より、市役所6階大会議室で34名の出席をえて行なわれた。これより前に行なわれた各クラブの会議の終了後、直ちに議長に柳利夫(思多)、儀間 進(青蕨)の両氏を選んで開始された。

初めに、特にご出席いただいた太田茅郎先生から、「スポーツをするのにも難しい問題がからむ時代だけれど、スポーツを楽しみスポーツを通して親睦や心の交流を深めよう」とのご挨拶をいただいて、以下の順に議事がすすめられた。

1. 協議会会長挨拶および昭和54年度一般報告
2. 各専門部活動報告(技術部、広報部、会計部)
3. 会則の改正
4. 役員改選
5. 昭和55年度事業計画
6. 各専門部活動計画

以下は、その要長です。

## I. 柳協議会会長の挨拶と昭和54年度一般報告

今年は私たちのクラブを創立してからのよい8年目に入ることとなります。

昨年2月4日開催の第7回定期総会(45名出席・委任状は含まず)以降、この1年間の私たちの活動を振り返ってみますと、市連盟主催の行事や雨天の場合を除き毎週土・日曜と祝祭日にそれぞれ4〜5時間の定期練習が従前同様確実に実施されてきたこと、とくに昨秋からはそれまでの懸案であったジュニア教室を定期練習日に組み入れることができたことをあげておきたいと思えます。また恒例の5月の春季市民大会・9月の秋季市民大会・11月の市内団体戦とそれに新潟県柏崎市の選手団を迎えての親善試合の成功、さらに4月の新日本体育連盟主催の三多摩地区大会での活躍が目立ちました。

一才では4月に開いた初級者向けの宮村教室の成功と6月に三多摩新体連が主催した房前教室への参加、このほか会員各自がお互いに誘いあって外部の各種試合や教室へ積極的に参加・出場してそれぞれに自信をつけ技術向上に努めてきていることもあげておきたいと思えます。

また市民テとして定着してきた各種合宿、例えば4月の足利ホプラでのミニ合宿、7月の那須グリーンでの本合宿、11月の富士桜でのミニ合宿など見てきますとテニスファミリーと云いますか市民テニスクラブならではの感じがします。

以上のことでも判りますように、私たちのクラブは創立以来満7周年を迎えようとしていますが、この間に着実に歩を進め、夫婦や親子ペアを含め三百数十名の会員を擁する文字通り地域ぐるみの東村山市民テニスクラブとして今日まで成長してきました。このことは皆さん共々にお慶びし、向う1年さらに内容を充実させ発展させていくために、いっそう強固な組織運営をはかっていきたいと思えます。一例をあげますと、さる12月から土曜日の午前中に使

用コートをも3面増やしたように、定期練習時の利用コート面数の増加(限度はある)をも念め、より効率のよいコート運営に努力していきたいと思えます。また、新入会員の受付についても昨年までは年2回受け付けていましたが、今年からは年1回・12月受付締切にして練習効率を高めるようにしました。

以上述べてきた事柄を保障していくためにも前年度成果を見せたように、技術・財政・広報などの専門部活動をはじめ事務局体制をさらに強化しながら、いつも楽しいテニスができるようにしていきたいと思えます。

## II. 各専門部活動報告

### 1. 技術部(武谷技師部長)

事業項目	評価	備考
(1) 定期練習		
① 指導内容	○	① まだ指導方法が確立していないが、よくやった。
② クラス分け	○	② 指導上有効であったが、若干のコートのアンバランスがあった。
③ クラス別担当指導員	○	③ 責任感が持てよかった。(しかし時々指導員が1人もいないクラスもあった。)
④ 技術ノート	△	④ 出席をつけるようになったのはよかったが、活用面では十分でなかった。
(2) 技術部研修	△	前半は予定通りだったが、9月以降ほとんど持てなかった。この制度自体は活用次第で有効である。
(3) 外部指導者による教室	○	非常に良かった。
(4) 対外試合・講習会	△	公示はしたが参加者は極めて少なかった。
(5) 最終日曜日の部内試合	△	ピリッとした試合ができず、待ち時間も長すぎた。
(6) ジュニア教室	○	大変好評であった。クラス運営で子供達の働きが十分でなかった。マナーの点では次第に良くなってきている。
(7) 技術部会	○	回数も予定通りこなせたい。内容的にも一応必要なことは話し合った。(しかし議題が多く中途半端に終ることも多かった。)
(8) その他		
① ボール送り機	○	購入が遅れてはしたが使いかによっては大変有意義であった。
② ナ19-練習	X	若干の討議はしたが、良い案が出なかった。
③ 早朝練習	X	
④ ボールの管理	△	技術部として管理が不十分であったので、悪いボールを長期間使用することになった。

### 2. 広報部(川村広報部長)

(1) 「ガット」は、79年3月〜80年2月の1年間で延40頁、40名以上の協力により、毎月1日付発行をほぼ定着させることができた。

月例	頁数	回数	私とテニス	他
2頁建	5回	私とテニス	男 16	会長 13
3頁建	1回	男 6(5)	女 5	事務局 15
4頁建	6回	女 6	子供 3	技術部 13
号外	3頁建	1回		部外 3

- (2) 広報部員5名で出発、途中で欠けて4月より4名、8月より3名となったままであった。編集会議も6回招集して成立は3回(3/15, 4/17, 11/1)。78年度の10回に比べて会議数は少ないが、長期計画を作り能率化に努めたことは良かった。しかし、必要があって招集する会議の半分が未成立の状態は広報活動に困難をもたらすし、組織上も内容面でも個人請負の弊害と限界をさらけ出した。広報部活動が協議会組織全体の問題として位置づけられることが必要。
- (3) 「ガット」はほぼ2週間で配布されている。各クラブの会長さんなどのご尽力に負っている。配布業務負担軽減の工夫が必要。
- (4) 「私とテニス」の執筆者年間計画の結果、執筆時間にゆとりをもたせることができた。また、必要、不可欠の内容とはいえ、依然として会長、事務局、技術部長にかなりの負担がかかっている。2~3の方から投稿を戴いたことは、原稿不足の時に大変助けになった。
- (5) 会員の親睦、意見の反映など、紙面の改善では、広報部内の事情もあって前進できなかった。1月に行なった広報部主催の会は、今後充分なPRのうえで開くことが必要。

3. 会計部決算報告(笹野井会計部長)

昭和54年度決算について別表により説明がなされた。特に全体として、予算を消化するという立場ではなく節約に努め、会員に還元されるものには予算を上回っても支出するという方針で運用されたこと、また器具購入準備金を支出しなかったのは、その後ビデオを操作する人が練習できないなど実際上の懸念が生じたためであること、など報告された。

以上の報告をめぐって質問・意見(月末最終日曜日試合、水曜ナイター、ジュニア練習のあり方、コート周辺の環境整備等)が積極的にのべられた。

Ⅲ. 会則第10条の改正と55年度役員承認

- ① 第10条に「9. 相談役 若干名」を追加する。理由は、いくらお元気だとはいえ、70歳の高令者にクラブの会長をしていただくのは市民テニス協の精神にかかわること故、会長をやめられた後にも大所高所から会の運営にご尽力いただけるようにするためです。
- ② 第10条の5, 6, 7の各項に、「副部長 1名」を加える(即ち、会計・技術・広報に各副部長を設けること)。

この改正の承認を受けて、55年度役員が下記の通り承認された。

名誉会長	太田芳郎	事務局長	笹野井孝之	顧問	進
会長	柳利夫	技術部長	武谷直也	(副)長	井庸二
相談役	浦川親俊	広報部長	川村英明	(副)	佐藤多喜男
	阿部貞夫	会計部長	笹野井孝之	(副)	栗原千枝子
		会計監査	米田 寛		

なお、各クラブの役員一覧が別記のとおり紹介されました。

Ⅳ. 昭和55年度事業計画と各専門部活動計画

柳 会長より、7周年を迎えるにあたっての企画や、7月下旬に柏崎遠征をもって恒例の夏合宿を柏崎市で行なうこと、行政への働きかけ、コート確保のため意欲的に取組まねばならない問題など、纏縛述べられ、さらに各専門部活動計画が以下のように提案され、承認された。

1. 技術部活動計画(武谷技術部長)

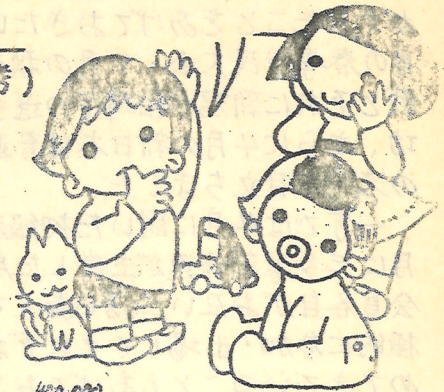
1. 定期練習

- (1) クラスは初心・初級・中級の3クラスに分け、初心は③番、初級は①②番、中級は④⑤番のコートを使用。
- (2) 定期練習時間: 日曜・祝日 9時~12時, 土曜 2時~5(4)時
- (3) 練習内容: 各クラスの課題を設け、それに向けて有効な練習を行なうよう努力する。

昭和54年度決算報告

昭和55年度予算

		予算額	決算額 (備考)	予算額 (備考)
収 入	1 前期繰越	275,819	275,819	515,259
	2 会費	1,907,600	1,954,800	2,320,000
	3 雑収入	40,000	42,100	60,000
	4 収入合計	2,223,419	2,272,719	2,895,259
支 出	5 コート代	600,000	604,000	700,000
	6 ボール代	280,000	310,600	350,000
	7 器具購入費	420,000	256,650	530,000
	8 器具購入準備金	250,000	0	400,000
	9 団体加盟費	51,000	51,000	80,000
	10 会議費	60,000	16,935	50,000
	11 保険料	71,400	109,850	80,000
	12 技術向上費	205,000	142,860	160,000
	13 親睦費	60,000	90,000	80,000
	14 事務局費	90,000	44,505	80,000
	15 渉外費	80,000	68,870	80,000
	16 広報費	80,000	62,190	80,000
	17 予備費	16,019	0	100,000
	18 支出合計	2,223,419	1,757,460	2,892,450
	19 次期繰越		515,259	



コートとりを よろしく

担当月	3月	4月	5月
コートとりの月	4月分	5月分	6月分
担当クラブ	本町クラブ B	青葉クラブ A	美住クラブ B

- (4)指導者：1年間固定した者が担当する。
- (5)試合：4に最低2回、きちっとした試合を行なう。従って従来の最終日曜日の試合は中止する。
- (6)その他：ボール出し機をもう一つ購入し、練習を効果的に行なえるよう努力する。ボールの交換、封切りは技術部が責任を持つ。

2. 技術部研修

第1、第3日曜日、1時~3時1面で行なう。内容は指導法の勉強と技術レベルの向上を主とする。

3. 外部指導者による講習

年2回、1回はウィークデー、他は土、日にできるよう配慮する。参加の公平を期す。

4. 対外試合、講習会への参加

できるだけ公示をする。必要に応じて個人に参加を呼びかける。

5. ジュニア

'79年と同様に続行する。2面を使用する。技術指導にかたよらないように配慮し、子供達の自主性を引き出すよう努力する。

6. 技術部会

隔月の第3日曜日の研修後に関く。欠席者への議事録の配布を確実にしていく。

7. その他

- (1)意見、疑問などの投書箱をコートに備える。
- (2)技術部コーナーを物置に作る。
- (3)ナイター、早朝について検討し、一定の結論を出したい。

2. 広報部活動計画(川村広報部長)

- 1. 「ガット」は2頁建を基本とし、必要に応じて4頁建で毎月1日付発行とする。
- 2. 紙面、内容の改善のために
  - (1)「私とテニス」の他に、会員の親睦、消息のための欄を設ける。
  - (2)コートに投書箱(意見箱)を備える
  - (3)ジュニアなど広く会員の参加と協力で紙面を作る。
  - (4)渉外関係の活動をできるだけ紙面に反映させる。

3. 実務負担軽減のために

- (1)「ガット」の印刷を外注する。これに伴い原稿締切が毎月15日以前となるのでご協力下さい。
  - (2)「ガット」配布用名簿と、市民テ(差出人)の封筒を作る。
4. 広報部のなかの仕事分担と協力関係をはっきりさせ、広報活動の安定化、発展をはかる。

3. 会計部・55年度予算(笹野井会計部長)

別記の予算案について、7周年記念行事をどうするか未定なので予備費に含みをもたせてある旨の説明あり、了承。

以上、最後の議事が終わったのは外も暗くなり始めた5時近く。日曜のため市庁の大会議室も暖房がなく、陽が傾いてからは室内も肌寒くなり、太田先生をはじめ皆さんさぞ寒かったことと思います。ご出席の皆さん、ご苦勞様でした。

最後になりましたが、会場を快く利用させて下さった市の関係者の皆さんにお礼申し上げて、報告を終わります。

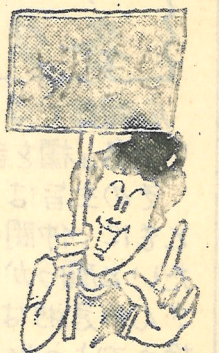
## テニス人をねらう 空巣どろぼうにご注意!

昨春あたりから東村山市内で変り種の空巣泥棒の話を聞くようになりました。ラケットを持って出かける家をマーク(殆んどが主婦)しておいて、ラケット持参で出かけるのを見届けてからおもむろに空巣に入り作業していくというものです。取(盗)っていくものは殆んどが現金だそうです。

私たちの身近かな仲間にも何人かの被害者が出ております。テニスブーム(2)が泥棒の仕事場づくりにならないように、皆さんも十分にご用心のほどを! <柳・記>

昭和55年度 各クラブ役員 および 会員数 (55年1月現在)

	東住クラブ	恩多クラブ	本町クラブ	青葉クラブ	美住クラブ	
会長	長井 庸二	中根 一夫	米沢 行夫	高瀬 欣也	河野 好明	
会計	杉山 邦夫	川下 カツ	田畑 ヤ仔	杉山 佳代子	桑原 ま子	
技術	長井 庸二 笹野井 孝之 山口 進郎 広川 一夫	武谷 直也、武谷 千枝子 宮崎 峰雄、中根 一夫 山本 豊、吉永 洋司 荒瀬 正彦、松井 貞二 増沢 一浩		米田 寛 高瀬 欣也 藤岡 信照	米田 道明 本保 俊昭	
広報	川村 英明	西原 正道	石原 好子 佐藤 多喜男	長谷川 順三	河野 宏子	
コート A	エ藤 昭幸	森田 易言	樋口 善一	藤岡 順子	竹内 とし子	
トリ B	丸山 節子	松井 光子	高橋 達子	儀間 加代子	月森 章子	
55年1月現在						
A	28	30	29	29	25	} 286
B	28	30	29	32	26	
休部	4	9	5	4	2	24
合計	60	69	63	65	53	310



市民テニス協議会の名誉会長 太田芳郎 先生の近況を、と思ひまして、先生のご承諾をいただきましたので、賀状を拜借いたしました。

市民テ協の海外関係の一つです。遅くなりましたがそのまま転載します。

### 新年あけましておめでとーございませう

昨年中は私どもの活動に御協力いただきましてありがとうございます。本年も都民のスポーツ要求にこたえ、新しいスポーツ運動の飛躍と新体連東京都連盟発展の年とするため、努力したいと考えております。

なお一層の御援助をお願い申し上げます。

一九八〇年 元旦



〒170 東京都豊島区東池袋一の十五の十二 第三鈴木ビル

新日本体育連盟東京都連盟

理事長 永井 博

### 新年おめでとーございませう

さて私は、この一月十一日で満八十歳の寿、妻も六月一日に満七十七歳の寿を迎えます。また、昨年三月、日本女子体育大学を最後に、五十余年の教職を降り、一年前には、九十九歳の母を見送り、公私共に身軽になりましたので、春から秋迄は、できるだけ浅間山麓の山の家で過ごすつもりです。

一米位の苗木だった白樺・唐松・五葉松・紅葉等が、二十七年の年輪を重ねて森となった山の家で、訪れる野鳥やリスと親しみ、テニスと工作の側ら、過去五十年の間に、新聞雑誌等へ寄せた雑文、著書や講演・放送等の原稿を整理集成し乍ら、人生の荒波をここ送るり越えて来た小さな舟の航跡を、振り返って見たいと思っております。

山の家へお伴するのは、無邪気なチビ(ダックス犬)と、葉から落ちた雛を育てあげ、私共になつて、何處野に放つても帰って来る椋鳥とひよどりです。私共のこれからの人生航路は、与えられる余生を大切に過ごすことだけでしよう。「ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。波みにうかぶうたかた(泡)は、かつ消えかつ結びて、どどまることなき(方丈記)」この世に、交らぬ友情をもつて山の伏屋を訪れ下さる方があれば、チビや小鳥と共に、心からお迎えします。昭和五十五年一月一日

太田芳郎・妻 文子

山の家 〒371-14 群馬県吾妻郡北軽井沢町音楽村 電話・〇二七九八一四一二二八七

### 新体連東京都連盟専従者年末一時金募金のお礼

前略 十二月以来とりくまれました。都連盟専従者一時金と活動資金のための募金の断之に、皆様には積極的に対応していただき、ありがとうございます。

おかげ様で、一時金の支給もでき、また活動資金についても一定補填することができました。私どもは皆様のこうした励ましにこたえて、八〇年代の都民のスポーツ発展に前層奮斗する所存です。

とりあえず、書面にてお礼させていただきます。

一九八〇年 一月十日

新日本体育連盟東京都連盟

理事長 永井 博

### 広報部よりお願い

### 仲間の消息を各クラブの会長さんへ

広報部では「ガット」紙面の改善の一つとして、会員の「消息」欄を設けることにしました。

その主旨は、テニスを通しての楽しみや親睦を深めるとともに、仲間の慶びや哀しみを共に分けあう心を大切にしたいと願うからです。身近な例で恐縮ですが、昨秋の志賀さんの急逝は哀しいことでしたが、年が明けて会員登録切換えでようやくその事実を知ったことは更に哀しいことでした。この頃コートに姿を見ないけど元気だろうか、仕事に追われてふさぎこんでいやしいかな...など、形やことばにそのままあらわれない仲間同士の心遣いを、私たちの市民テ協は大切にしていきたいと思ひます。

「ガット」は、こうした仲間としての思い遣り、心遣いを、そのほんの一部でも紙面に映したいと思ひます。

会員の皆さん！ これは...と思う仲間の消息を出されるだけ各クラブの会長さんまで集中して下さるようお願いいたします。皆さんの力で、紙面を改めていきたいと願っております。(文責：川村)